

曾禰達蔵（そねたつぞう）（1/2）

～明治の建築界第一の人格者～

1852年 嘉永 5年	江戸唐津藩邸に生まれる。 小笠原長行公の小姓として幕末を迎え帰藩。
1879年 明治 12年	工部大学校（現東京大学）造家学科を第1回生として卒業。
1881年 明治 14年	工部大学校助教授
1886年 明治 19年	海軍省を経て
1890年 明治 23年	三菱社へ入り、三菱丸の内赤レンガ街、占勝閣などの建設に従事。
1908年 明治 41年	曾禰中條建築事務所を開設。
1912年 明治 45年	慶応義塾創立50年記念図書館
1918年 大正 7年	東京海上ビル
1923年 大正 12年	日本郵船ビル
1927年 昭和 2年	三菱銀行小樽支店
1935年 昭和 10年	熱海岩崎男爵別邸
1937年 昭和 12年	85歳で没す。

これらの設計にあたった。

数多くの作品を残し、戦前最大の設計事務所となった。この間、日本建築学会会長、衛生工業協会会長、冷房暖房協会会長などの要職を歴任（唐津市建設部建築課 H18年唐津近代図書館「唐津の三大建築家展」の際の資料より）

■宮島醤油HPより

曾禰達蔵は嘉永5年（1852年）、江戸城下丸の内、大名小路の唐津藩邸に生まれた。父は藩主の傍に仕えて文筆を担当する役職（祐筆、ゆうひつ）だった。当時の唐津藩主は小笠原長国^{おがさわらながくに}で国もとにあり、その世子（後継者）である長行^{ながみち}が江戸にあって幕府の役人を務めていた。曾禰達蔵は小笠原長行に気に入られ、10歳の頃から長行の小姓となる。

明治4年（1871年）、唐津藩が藩校として英学寮耐恒寮を開設し、東京から高橋是清を招いた時、曾禰達蔵は第一期生として入学する。翌年、高橋が東京に戻るに際して、曾禰は同行し、高橋家に住み込みとなる。翻訳などのアルバイトを紹介してもらいながら勉学を続ける。明治6年（1873年）、工学寮（後の工部大学校、東京大学工学部の前身）の第1期生入学試験が行われ、曾禰はこれに合格して寮生となる。工学寮の中では最も芸術性、人文性の高いと思われた造家学科（今の建築学科）を選んだ。

明治10年（1877年）、英国から若き建築学者ジョサイア・コンドル（Josiah Conder）が来日する。工学寮は工部大学校と改称され、コンドルが造家学科初代教授となる。造家学科はにわかに活気付き、辰野金吾、片山東熊、曾禰達蔵、佐立七次郎、宮伝次郎らが厳しい教育、訓練によってめきめき力をつける。コンドルと曾禰は同い歳であり、特に深い友情と師弟関係を持つに至る。

明治12年（1879年）に工部大学校を卒業した後、曾禰は工部大学校（教授補、助教授）と海軍省（海軍兵学校建築掛、技師）とを兼務したり転勤したりして、後進の指導と海軍施設の建築にあたる。

～2/2へつづく～

分野 人物

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



曾禰達蔵
(1852～1937)



曾禰達蔵が設計した日本郵船ビル
(右)と東京海上ビル

(『唐津市史』より)

◎引用・参考文献（出典）

- ◆唐津市建設部建築課H18年唐津近代図書館『唐津の三大建築家展』の際の資料より
- ◆宮島醤油HPより一部抜粋
- ◆『日本の建築 明治大正昭和第3巻 国家のデザイン』藤森照信著、益田彰久写真（1979年 三省堂）
- ◆『日本の建築 明治大正昭和 第7巻 フルジョワジューの装飾』石田潤一郎著、益田彰久写真（1980年 三省堂）
- ◆『曾禰達蔵詩歌集』（1967年 曾禰武発行）
- ◆『小笠原孝岐守長行』小笠原孝岐守長行編纂会
- ◆『20世紀日本の経済人』日本経済新聞社編（2000年 日経ビジネス人文庫）
- ◆『唐津市史』

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html

曾禰達蔵（そねたつぞう）（2/2）

～明治の建築界第一の人格者～

～1/2からつづく～

明治23年（1890年）、三菱社の岩崎弥之助は丸の内の広大な土地をまるごと買い取り、世間をあっと言わせた。英国から帰国した三菱の2代目大番頭、はらた平五郎は、早速コンドル教授に助力を求め、コンドルは曾禰を呼び寄せた。曾禰は海軍を退職して三菱社に建築技師として入社する。こうして、はらた平五郎、ジョサイア・コンドル、曾禰達蔵という強力なチームがこの年のうちに結成され、首都の中心街の建設がスタートする。そして明治43年（1910年）ごろには「丸の内煉瓦街」と呼ばれるビジネスセンターが完成した。この街全体が三菱の所有物であり、三菱はオフィスビル賃貸業をひとつの事業として成立させた。

曾禰はこの間、自社ビルの建設にも精力的に取り組んでいる。三菱社大阪支店、三菱銀行神戸支店、三菱合資会社門司支店などを設計し、ふるさと唐津には三菱合資会社唐津支店を残した。

明治39年（1906年）、55歳になった曾禰は三菱合資会社を定年退社し、同社建築顧問となる。同時に東京九段に曾禰建築事務所を開設する。2年後には16歳年下の俊才、中條精一郎を招いて曾禰中條事務所と改める。以後の活動は中條との共同作業となり、またひとつ充実した創作の時期を迎える。学校、会社、庁舎、私邸など、沢山の作品が生み出されたが、慶応義塾創立50周年記念図書館（大正元年、1912年）をはじめとする慶応義塾の校舎群が名作として知られる。

曾禰を知る人々は口々にその人格の高潔さを語る。曾禰は真摯、篤実そのもので、誰からも信頼され、尊敬された。曾禰は技術志向で、建築には合理性と機能性を求め、様式にはこだわらなかった。組織の中で働くことに向いていたようで、三菱の社員を定年まで勤めたのも、個性派ぞろいの明治建築界のリーダーたちの中にあっては珍しいことだった。

三菱合資会社唐津支店本館は明治41年（1908年）9月に完成した。唐津西港妙見埠頭の付け根部分にある。明治末期の唐津西港は国内外への石炭積出港として栄えており、三菱合資会社は石炭の取引で利益を上げていた。

大正8年（1919年）頃が全盛期で、パナマ運河を経由して東西を結ぶ世界一周の貨客船も唐津港に寄港していたという。

白をモチーフとしたこの木造洋館は、とても愛らしく気品に満ちて、海辺の風景によく映える。現役で活躍していた頃は「三菱御殿」と呼ばれていた。海側の広々としたバルコニーが心地よい。そこに立つと、右に唐津漁港、左に妙見工業団地、正面には湾内を行き交う船が見える。海風と建物が一体化したような開放感が訪問者を包む。明治という時代の権威主義、事大主義とは別の、曾禰達蔵が愛した世界がある。

分野 人物

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など

◎引用・参考文献（出典）

- ◆唐津市建設部建築課H18年唐津近代図書館『唐津の三大建築家展』の際の資料より
- ◆宮島醤油HPより一部抜粋
- ◆『日本の建築 明治大正昭和第3巻 国家のデザイン』藤森照信著、益田彰久写真（1979年 三省堂）
- ◆『日本の建築 明治大正昭和 第7巻 フルジョワジの装飾』石田潤一郎著、益田彰久写真（1980年 三省堂）
- ◆『曾禰達蔵詩歌集』（1967年 曾禰武発行）
- ◆『小笠原吉岐守長行』小笠原吉岐守長行編纂会
- ◆『20世紀日本の経済人』日本経済新聞社編（2000年 日経ビジネス人文庫）
- ◆『唐津市史』

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html